

第 4 学 年

- 1 研究主題 「表現力・コミュニケーション力を高める指導法の工夫」
ー国語科：物語文の読み取りを通してー

2 育てたい力

◆ 表現力

- 大事なことを落とさずに筋道を立てて話す力
- 言葉や表現を「読み取り、想像する力
- 自分の考えを分かりやすくまとめて書く力

◆ コミュニケーション力

- 互いの考えの共通点や相違点を考えながら、進んで話し合う力
- 進んで思いや考えを交流させ、互いの良さを認め合う力

3 研究の視点と手立て

【視点1】国語科の基礎基本の定着を図る指導の工夫

- ワークシートやノート指導の工夫
- 発問の工夫

【視点2】「話す・聞く」力を高めるための話し合い活動における工夫

- 話し合いの形態の工夫（ペア・グループ・学級全体など）

【視点3】日常的な活動の場の工夫

- 朝の会・帰りの会でのスピーチの定着化
- 相手や状況にふさわしい言葉遣いの意識化

第4学年研究の成果と課題

4学年では、国語科の物語文の読み取りを通して、表現力やコミュニケーション力を高めたいと考え1年間実践を重ねてきた。その結果次のような成果と課題が得られた。

【視点1】国語科の基礎基本の定着を図る指導の工夫

- ・ワークシートやノート指導の工夫
 - 自分の考えをまとめて書けるようになり、書くスピードが速くなってきた。
 - 変容が見えるように今後研究を深める必要がある。
 - 書く時間配分や量と内容の精選が必要である。
- ・発問の工夫
 - たくさん根拠が出る発問や2つに考えが分かれるような発問をすることがとても重要であり、そのような発問をすることが子供たちの意見の交流につながった。

【視点2】「話す・聞く力」を高めるための話し合い活動における工夫

- ・話し合いの形態の工夫（ペア、グループ、学級全体など）
 - 隣の人とペアで話し合う機会を持つことができ、友達の考えを聞いて自分の考えを話すのにペア学習は効果的であった。
 - ペアで話し合ったことやグループで話し合ったことを、全体の話し合いに広げることが大切である。
 - 友達の意見を聞いて、自分の気持ちなどをぶつけ合い、意見の交流を通して、物語文の面白さが分かり、また、物語を読もうという気持ちが芽生えた。
 - 自分の考えを的確に伝えるため、しっかり読み取らせる指導が必要である。
 - コミュニケーションのとり方として、2人だと上手く話せるが、5、6人になると難しくなってくるので、場の工夫と役割を明確にすることが必要である。
 - 自分の考えを表現する時、言葉で想像するのが難しいので、日常的に語彙を増やす活動が必要である。

【視点3】日常的な活動の場の工夫

- ・朝の会・帰りの会でのスピーチの定着化
 - 話し手は話したいことを整理して分かりやすく話すよう心がけるようになってきた。
 - スピーチの話題を定期的に変えるなどして、児童の意欲・関心を持続していく工夫が必要である。
- ・相手や状況にふさわしい言葉遣いの意識化
 - 語彙を豊かにするために読書が有効であった。
 - 場に応じた言葉遣いの定着を意識した指導が今後必要である。